

≪和光特別支援学校の活性化・特色化方針≫

| | | | | | | |
|---|--|--------------|-------|--------------------------|------------------|------|
| 種別 | 肢体不自由 | 学部・学科 | 小・中・高 | R8.5.1 児童・生徒数 | (男)105 (女) 59 | 計164 |
| アクセス | 東武東上線・地下鉄有楽町線・副都心線 和光市駅南口より 徒歩25分 和光市駅南口より東武バス「司法研修所循環」乗車 「西大和団地」バス停下車 徒歩7分 | | | | | |
| <教育課程等> | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・障害や発達の状況、学習課題に応じた教育課程を編成し、学習場面に応じて集団や学習環境を整え、児童生徒一人一人に適した学習を行っている。各児童生徒の履修する教育課程が適しているか、成長に伴って変化する障害や発達の状況などを考慮し、見直しを行っている。 ・自立活動は児童生徒が主体となり、一人一人の障害や課題に応じた取組を個別に行っている。外部専門家（理学療法士、作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士など）による教育相談や研修を実施し、児童生徒のよりよい指導に活かしている。児童生徒の学習課題に応じて、視線入力装置などの ICT 機器を取り入れた学習も行っている。 ・医療的ケアの必要な児童生徒については、看護教員や研修を受けて認定された教員が自立活動の視点をもって、一人一人に応じた医療的ケアを実施している。 ・児童生徒にとって「身につけたい力」を学部や教育課程に応じて作成し、12年間の系統性のある指導や教育課程となるようにしている。 ・健康面などの理由から通学が難しい児童生徒については、在宅での訪問指導を行っている。 | | | | | | |
| <学校行事・部活動> | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・開校50年を迎え、これまでの伝統を継承するとともに、児童生徒の主体性や協同性をさらに育みながら、学校行事をとおして地域との連携を深めていく。 ・各学部、ブロックで、運動集会を開催している。 ・文化祭は、全児童生徒やPTA、地域が一丸となって取り組んでいる。 ・校外行事（修学旅行、宿泊学習、社会体験学習など）は、発達段階や系統性を考慮し、それぞれの行事に目的を設定し、児童生徒にとって経験を広げていくことや社会性の育成をめざしている。 ・中学部や高等部の希望者による課外活動を実施しており、陸上競技やローリングバレーボール、ボッチャなどの大会に向けて練習を積み重ね、優秀な成績を収めている。 | | | | | | |
| <家庭・地域との連携> | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学部6回、高等部2回の学校見学会を実施する。その他にも、個別に教育相談や体験会なども開催している。 ・肢体不自由特別支援学校のセンター的機能として、巡回相談や学校訪問などを中心に、地域のニーズに応じた支援や教育相談を行っている。 ・特別支援教育コーディネーターや自立活動専任などが講師となり、地域の特別支援教育に携わる教職員向けの研修会や公開講座などを開催している。 ・学区が広域なこともあり、市町村の教育委員会や地域の関係施設と連携をはかるため、定期的に「学区特別支援教育連絡会」を開催している。 ・小中学部は、児童生徒が居住する地域の小中学校で支援籍学習や交流および共同学習を実施している。 ・高等部については、和光国際高等学校との交流学习を年2回開催している。 | | | | | | |
| <進路> | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路を見据えて、高等部を中心に進路に関する学習や産業現場等における実習も行っている。 ・福祉事業所等への就労が多いが、年度によっては大学などへ進学をする生徒もいる。 <ul style="list-style-type: none"> <企業就労> 事務系の仕事（PC入力、書類の整理など） <福祉的就労> 生活介護や就労継続B型などの事業所 <大学等への進学> 令和3年度1名、令和5年度2名 ・「なんでも相談会」と称して、全保護者を対象に進路の相談会を実施している。 | | | | | | |



和光特別支援学校 育成方針 ～自分らしく、豊かに生きる力を育む学校～

本校の特色

本校は昭和 52 年創立、50年目を迎える肢体不自由特別支援学校です。
児童・生徒の障害の特性を踏まえて教育内容を策定し、一人一人に応じた学習を行っています。

授業の充実

丁寧に実態把握を行い、一人一人に応じた指導を大切に、各教科、自立活動などの学習をしています。PDCA サイクルをもとに常に授業の改善を行っています。



体験活動の充実

児童生徒の生活経験を広げられるよう、どの学年においても体験活動を取り入れ、児童生徒の学びにつなげています。




医療的ケアの充実

経管栄養、吸引、吸入、導尿、酸素療法を必要とする児童生徒が学んでいます。医療的ケアのある児童生徒も学びが継続できるように、学校でのケアを行っています。

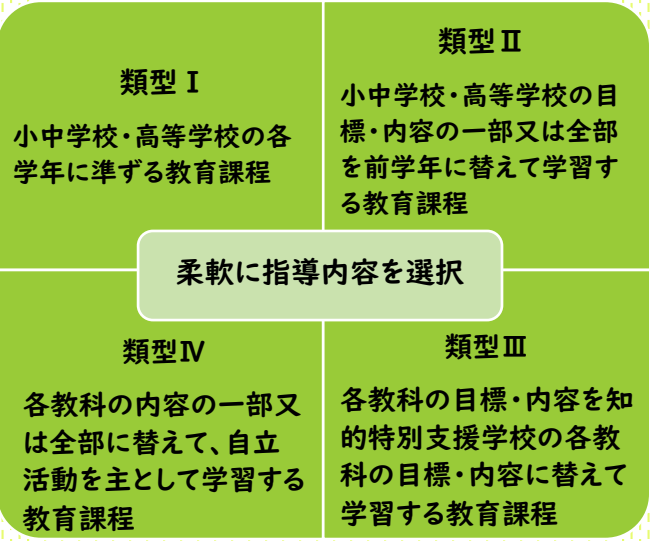


学校教育目標

- 豊かな表現力を育てる(表現力)
- いきいきと生活する力を育てる(自立・自己決定)
- すすんで学ぶ習慣と基礎的な学力を培う(学習)
- 協力し合い、人と関わる力を育てる(仲間意識・社会性)



本校の教育課程



身につけたい力(一部抜粋)

※学部間の接続を意識した、12年間の中で育成する資質・能力

| | | 学部・ブロック目標 | 内容 | | | | |
|----------|----|-------------------------------------|---|--|--------------------------------------|-------|--|
| | | 類型 I・II | | 類型 III | | 類型 IV | |
| 自立・自己決定 | 小低 | 生活リズムを整え、見通しをもって楽しく学校生活を送る。 | 生活に必要な習慣を身につけ、自分でできることは自分で行う力 | 見通しをもって学校生活を送り、自分でできることに取り組もうとする力 | 身近な大人とともに様々な活動にむかう力 | | |
| | 小高 | 基本的な生活習慣を身につけ、学校生活を主体的に取り組む。 | 自分の身体や健康について知り、自分でできることと、他者に依頼することを考え、判断し、行動する力 | 様々なことに自分から取り組み、身の回りのできることを増やす力 | 様々な活動に主体的に取り組む力 | | |
| | 中 | 基本的な生活習慣を確立し、自己の目標をもって、主体的に判断し行動する。 | 働くことや社会に貢献することについて考え、将来について適切な情報を収集・整理する力 | 自分でできることや他者に依頼することを考える力 | 簡単な見通しを持ち、自分らしく活動に取り組む力 | | |
| | 高 | 自己実現のため、卒業後の社会生活を豊かに送る力を身につける。 | 自分の将来や生活のために必要な情報を収集・整理したり、自己を見つめ直したりし、将来や暮らしについて自己選択・自己決定する力 | 自分でできることと依頼することを的確に判断し、主体的に活動する力 | 今まで身につけてきた力を伸ばし、様々な人や環境の中で自分らしく生活する力 | | |
| 仲間意識・社会性 | 小低 | 集団活動を通して、友だちとのかわりを豊かにする。 | 相手の気持ちを考え、思いやって接する力 生活の中の基本的なルールやマナーを守って生活する力 | 身近な大人や友だちと一緒に活動できる力 | 身近な大人を支えにして、友だちを意識する力 | | |
| | 小高 | 協力して活動に取り組むことを通して、互いに理解し認め合う。 | 友だちと互いに信頼し、学び合う力 相手の立場に立ち、時と場に合わせた行動する力 | 協力して活動に取り組み、友だちのことを知ろうとする力 | 友だちの存在に気づき、共に活動に参加する力 | | |
| | 中 | 相手の立場を考え、協力し合いながら人間関係を広げる。 | 互いの立場や意見を尊重しながら話し合い、結論を導き出せる力 身の回りの人たちの善意に感謝したり、他者にかかわったりする力 | 基本的なルールやマナーを学び、協同して行動する力 自分と他者の違いを理解し、友だちを思いやる力 | 相手と相互にかかわり、物事や体験を共有する力 | | |
| | 高 | 集団や社会の一員として、多様な他者と適切にかかわる力を身につける。 | 相手の立場に応じて、発言の仕方を工夫し、課題を解決する力 社会の一員としての自覚をもち、自ら社会にかかわる力 | 集団活動の中で、周囲の状況を理解し、的確に行動する力 様々な人とのかわりの中で、自他の違いを認め互いに協力して物事に取り組む力 | 様々な集団の中で、他者と適切にかかわる力 | | |